

## 臨床研究に関する情報公開について

岡山旭東病院では以下の通り、患者さんの診療情報を用いた研究を実施しております。  
インフォームド・コンセントを実施しない場合において、「人を対象とした生命科学・医学系研究に関する指針」に基づき、情報公開いたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また、患者さんのプライバシーの保護については法令等を遵守して研究を行います。ご自身のデータについて、本研究への利用を望まれない場合には、担当責任者にご連絡ください。

西暦 2025 年 7 月 1 日作成

|                 |   |
|-----------------|---|
| 研究課題名           | 術中 CBCT 撮影における被写体の配置が画像に及ぼす影響について   |
| 研究責任者           | 放射線課 診療放射線技師 池本 智也  |
| 研究期間            | 倫理委員会承認日 ~ 2025 年 7 月 31 日  |
| 既存試料・情報の収集期間    | 2025 年 3 月 1 日~2025 年 3 月 31 日  |
| 研究対象者           | 2025 年 3 月に仙骨骨折 TITS Screw 固定術を行った方。  |
| 研究の意義と目的        | 当院では仙骨骨折における非観血的固定術にて、CBCT Navigation System を使用するため、術中に CBCT 撮影をする必要がある。しかし、Guide Wire(GW)と C アームの回転軸が垂直に交わる配置で GW のグレースケール値が低下し、近傍組織との判別ができない現象がみられた。そこで本研究では被写体と C アームの配置が画像に及ぼす影響の検討を目的とする。   |
| 研究の方法           | C アーム型透視装置 CIOS Spin (SEMENS 社製) と GW(Smith and Nephew 社製、 $\varnothing 3.2\text{mm} \times 324\text{mm}$ )を使用し、GW の高さは回転中心、長軸は矢状軸と重なる位置に配置し、冠状断面上で $1^\circ$ ずつ $5^\circ$ まで回転させた場合と $90^\circ$ 回転させた場合とで撮影した。基礎検討として、X 線透過性の違いによる影響を考慮するため、アクリル製ファントムと GW のグレースケール値の低下幅を比較検討した。 |
| 利用する試料・情報       | 仙骨骨折 TITS Screw 固定術の対象となった患者の術中 CT 画像   |
| 個人情報の保護         | 個人情報は削除し、どのデータが誰のものか分からなくして、個人情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。この研究に使用した情報は、研究の中止または研究終了後 5 年間 岡山旭東病院 放射線課で保存します。電子情報はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他紙媒体の情報は施錠可能な保管庫で保管します。  |
| 試料・情報の利用の停止について | 患者さんまたはその代理人のご希望により、患者さんが識別される試料・情報の提供とも利用を停止することができます。試料・情報の提供の停止を希望される方は下記の問い合わせ先までお申し出ください。  |
| 問い合わせ先          | 公益財団法人 操風会 岡山旭東病院<br>研究担当責任者:池本 智也<br>連絡先(電話番号) 086-276-3231(平日:9時~17時)   |